

1 学校教育目標

○進んで考える子 ○仲よく助け合う子 ○心と体をきたえる子 ○最後までやりぬく子

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	生きる力を身に付けさせる学校	○学ぶ楽しさや喜びを実感させる学校 ○健やかな心身を育む学校	○豊かな人間性を育む学校 ○家庭・地域から信頼と協力を得られる学校
○児童・生徒像	知・徳・体の調和のとれた児童	○主体的に学び、自分の考えをもち、表現できる児童 ○豊かな心をもち、互いを認め合い、高め合う人権感覚の備わった児童 ○心身ともに健康でたくましい児童 ○何事にも意欲的に挑戦し、粘り強く努力する児童	
○教師像	職務に全力で取り組む教師	○専門職としてすぐれた指導力をもち、意欲的に研修に励む教師 ○児童に最も近い大人として手本となれる社会人 ○教育課題に適切に対応できる教師	

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

児童の知・徳・体の育成を目指し、地域・家庭・学校の三位一体による教育体制作りに取り組んでいる。
 児童の現状は、素直な子どもたちが多く、比較的落ち着いた生活状況である。実際には、児童間でのトラブルやいじめの事実などもあるが、成長過程での学びの契機になるような指導を学校として心がけている。
 学習成果や体力面での向上については、その取り組み過程上にあり、教職員も指導法の工夫改善等により一層の研修を重ねていく必要がある。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） H:平成 R:令和				
		H29	H30	R1	R2	R3
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	豊かな心の育成	○	○	○	○	○
3	体力の向上	○	○	○	○	○

5 令和元年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
区学力調査通過率 80%		通過率 80% 又は 区平均		国 74.5% 算 74.8%		自己肯定できる場面の設定や方策が重要		○	
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象教科 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 継続	朝学習	全児童 国語 算数	毎週 火・木 15分間	担任指導 漢字ドリル・算数ベーシ ックドリルに取り組む	確認テスト	計算・漢字共に 完答率 90%	算数完答率 90%以上	漢字習得の定着率へ の取組みに要再考	○
2 継続	放課後 補習教室	区調査正 答率 70% 以下児童	毎週 月・火・ 金 30分	担任・専科・ボランティ ア指導で国算ベーシッ クドリルを基本教材とする。	定着確認テ スト (12月)	定着テストで 目標値通過児 童が 80%以上	通過率 70% 越え で 80% に届かなか った	担任に加え専科・ボ ランティアの参加が 効果的であった	△
3 継続	サマース クール	基礎を要 する各学 年約 10名	夏季休 業中 10 日 60分	全教員が関わり国算のつ まづき解消を目指す。	夏休み終了後 の確認テスト	確認テスト 各自の正答率 10%以上向上	正答率の 10% 以上 の向上が達成できた	全教員の個別指導参 加が学力向上につな がった	◎
4 継続	家庭学習 の定着化	全児童 保護者	通年・保 護者会	全教員共通認識の下で「手 引き」を通して家庭学習を 推進させる。	日常の宿題提 出状況と学習 成果の相関	宿題提出率、各 個人 90%以上	たよりや保護者会 でも周知努力をした が達成できなかった	児童が特定化し、引 き続き協力体制の構 築を継続していく	△
5 新規	健康管理 への意識 向上	全児童 保護者	通年	健康管理意識の高い家庭 の児童は、学力成果も高い 現実を波及させる。	歯科を中心に 治癒率向上を 推進	各科治癒率 90%以上	治療勧告を数回行っ ても 90% 以上の達成 は難しかった。	児童の意識向上と家 庭の認知度を高める 呼びかけを行う	△
6 新規	調べる学 習への取 り組み	4年生 以上	夏季休 業終了 時まで	担任・図書館支援員を中心 に児童自らが課題設定し、 書籍を用いて解決する。	完成作品の内 容審査・応募	全員提出を原 則とする。	担当教員の周知努力 で全学年展開ができ た。	全教員による学校図 書館活用意識を深め る	○
7 継続	各種検定	全児童	通年	開かれた学校作り協議会 の主催による漢検・数研・ 英検への取り組み。	検定や学習会 への参加状況 の確認	受験級への合 格率 80%以上	合格率 漢検 91% 算数検 96% 英検 100%	多数の児童が意欲を 持って参加でき、保 護者の協力が効果的	◎

重点的な取組事項－2		豊かな心の育成			
A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度	
思いやりのある優しい子の育成	学校関係者評価で児童の「学校生活」への肯定的評価が80%以上	学校生活への不満は少なかったが、学年・学級の較差があった。	教員の心の育成に対する研修も重要。	○	
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
人権教育	「友人関係が良好」への肯定的回答90%	道徳の授業や各種教育活動を通して道徳的心情を醸成。	道徳授業地区公開講座との関連や生活全般を通して指導が行えた。	いまだにいじめ事案は発生する	○
異年齢集団による活動体験	「友人関係が良好」「学校生活」に肯定的回答90%	クラブ活動・仲良し班活動・幼保小中連携活動での交流体験。	上級生の規範意識が定着し切れてなく、模範的な行動とは言えない場面もあった。	責任と評価について教員の指導力も高めていく。	△
ボランティアマインドの醸成	「学校生活」に肯定的回答90%	オリンピック・パラリンピック教育講演会及び交流会。	全体の肯定的回答は90%以上であるが、学年・学級間較差もある。	担任間の共通認識ももてる機会の設定。	○

重点的な取組事項－3		体力の向上			
A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度	
全国体力調査の結果を区内平均とする。スポーツに親しむ姿勢を培う。	体力調査結果を区内平均値以上。学校関係者評価で児童の「体育・遊び」に関する肯定的回答が90%以上。	上体起こしや体前屈等が区内平均であったが課題が多く残った。	数値上は厳しい結果だが、それを機に教員の一層の努力が見られた	△	
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
通年での体育授業の充実	「体育の授業が好き」という回答90%	児童の現状に即した指導の工夫改善。	児童が主体的に行動できる環境作りに取り組んだ。	体育好きの数値は高いので実績を伴わせる。	○
日常的な運動遊びの促進	「外遊び・運動が好き」90%	①「スポーツ朝会」金曜日 ②「アクティブタイム」8回	リズム体操やコーディネーショントレーニングを抵抗なく行えた	取り組みから1年経過してなく今後に期待。	○
季節に即した体育的活動への工夫	「外遊び・運動が好き」90%	長縄跳び・短縄跳び・持久走	全教員体制でめあてを明確にして取り組むことができた。	苦手な児童の問題解決への手立て検討。	○
コーディネーショントレーニング地域拠点校としての活動	体育的記録の結果向上	体育授業・行事への導入。	全校児童が専門指導者から直接学んだ。教員のみならず地域や近隣校への公開講座も実施した。	将来も継続できるように指導体系の整理が必須事項。	○

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

確かな学力の定着に向けた取り組み方針は、児童が興味関心を持って取り組み、学びの喜びを得られるような授業を作る「教員の授業力向上」・落ち着いた学びの舎としての学校となるための「教育環境の整備」・児童が社会性を身に付けたり、他者との関わりによって自己肯定感を得られるような多面的「機会の設定」などに重点を置いた。

学力の指標となる区・都・全国の調査結果は、平均値をやや下回り、芳しい状況ではなかった。そのような結果を受けて今年度は、教員の指導力向上への取り組みを第一課題として行った。PISSA型調査の「読解力」について日本が世界15位に落ちたように、児童の言語による論理的な整理能力と自らの考えへの連動性を高める必要性を共通認識して、校内研究で国語の「読解力」をテーマに取り上げ、全教員で研究授業や協議に取り組んだ。また、新人教員の人材育成を目指した校内新採研を設定して、ベテラン教員が指導を行うことでお互いの教師力向上を目指した。研究会においては外部講師を招聘して新たな授業作りに取り組んだり、ICT機器を活用したり児童が興味関心を持って臨み、児童が主体的に学ぼうとする意欲を培う授業作りに取り組んでいる。部分的なつまずきの解消や更なる実力の向上を目指して「補充教室」「そだち」など効果的な活用が行われている。小中連携活動についても学力向上に関わる相互の情報交換や研究を深めている。

「主体的・対話的で深い学び」を実践する上では、落ち着いた学習環境・生活環境の保障が求められる。この「安心・安全な学校」作りのためには、児童の規範意識や社会性、豊かな心情を備えることが必須条件である。それを培い育むためには、教員が高い人権感覚を持ちながら児童と関わる事が大切である。その上で、特別の教科道徳の授業のみならず全教育活動を通して、人との関わり合いや人道的見地における判断・実践力の育成に努めた。コミュニケーション力を高める「わかたけ教室」の活用、特別支援教育委員会、いじめ対策委員会等の活動も児童の健全育成に向けて行っている。

児童の個性は多様であり、通常の授業等だけでは表れない特質を備えている場合も多い。校内外での体験学習や外部講師による授業、競技会や作品展への応募、各種検定への取り組みなど児童が自尊感情や自己肯定感をもてるよう多方面への参加機会の設定努力をしている。

(2) 保護者や地域へのメッセージ

本稿は登校時の見守りをはじめ、地域・保護者のみなさんに支えられています。学力向上は、自らを高めるための最善の道であり、自ら考え確かな学力に裏打ちされる安定した心情は自己肯定感や他者への思いやりにも繋がります。この学力向上と豊かな心の育成を両輪として、その上に体力向上という原動機を載せて前進する子どもたちを育成する使命遂行に努めて参ります。そのためには、本校の教育活動に対する地域・保護者の皆様によるご理解とご支援が必要不可欠です。地域・家庭の皆様と教職員（学校）による三位一体で子どもたちを育める理想の学校づくりを目指します。

(3) その他（学校教育活動全般について）

令和2年度は、新学習指導要領の全面実施となる。外国語（英語）の授業やプログラミング教育なども試行から定着段階に移るように、時代に即して教育課題も次々と刷新され、それに合わせて教員への要求も高くなっていく。家庭の役割と学校の仕事が混在しつつある社会的風潮の中で、教員が疲弊し表情が暗くなるとは、子どもたちの健全育成に良い影響はない。笑顔の教職員が笑顔の児童を育ていけるように、組織的な「働き方改革」を進めていきたい。